

# 第23回 小海マイティデューロ MTB24時間耐久レース 2015

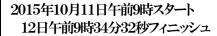
★主催:小海プティリッツア探索委員会2015

★共催:(一社)小海町開発公社

★後援:小海町、小海町観光協会

★賞品協力:株式会社シマノ、東京サンエス(株)、(株)ユニコ、ミズタニ自転車(株)

☆コース:松原湖高原オートキャンプ場特設MTBコース(約4.3km)



天候:雨後晴れ(時々突風) 出走:30チーム







小海プティリッツア探索委員会

# 24時間を楽しんだのは誰!?

~マイティデューロ24時間は、フランスで世界初開催された大会にならって、アメリカより早く、世界で2番目に開催さ れたMTB24時間耐久レースです。今回で23回目のレースは、マレットゴルフコースを縫うようにレイアウトされ、夜 間でも安心してコーナリングが楽しめると評判。日程は10月の3連休のため、2泊3日のオートキャンプも愉しむ準備と、 寒さ対策や雨対策が必要です。~ と、大会ガイドの冒頭にあるように、愉しむ準備からこの戦いは始まっている。

ジェット気流の蛇行が極端に南北に伸び、鬼怒川の氾濫も記憶に 新しいところ。天気予報が二転三転し、雨の降り始めが速くなった のは幸いだったが、南からの湿気の供給は予想の倍の雨量をも たらし、レースが読めない展開に。。。

スタート直後、雨具を来たライダーから、「このコースは楽しい!」 との評価があったものの、徐々に路面が荒れて行き、木の根の 露出や、水はけの不良個所、さらに表土が剥がれて粘土層が露 出と、雨が止むまでの1時間半の間で路面が激変。その後、翌朝 まで、走行ラインの見極めに悪戦苦闘することに。それは、周回 数に如実に現れていた!

### 特に悪路だったのは以下の5箇所!

マレットから作業道へのカーブは、三段落ちの構造で、ライダー は気付いていたかどうか判らないが、倒木の切り株のプレッシャ 一があって、ベストラインが取れなかった。



舗装路からの登り返し、通称「ダルダル坂」は、木の根が育ったこともあり、ダブル障害物と粘土路面の露出で、ソロライダーから 一度もクリア出来なかったと、強烈なダメ出しが!

グラウンドへの下りは、ペースダウンのバロメーターが隠されていた。下り切った右90度ターンの斜面走行距離が例年の半分以 下。粘土層露出と木の根が張り出し、走行ラインが皆無で、スピードに乗ったターンが出来ない。さらに夜中にはコースアウトが 続出し、グラウンドのピットからは転げ落ちるライトが何度も目撃されたとか。。。

旧御神木ループ、現小バルタン&大バルタンは、微妙な雨量のため、中途半端に表土が残り、下りも登りも、ズルズル状態。特に 林道の登りは、雨上がり直後はスベリ台、時間が経つにつれ粘着路面と化し、コースの印象をそこだけで半減させていた!

確かに天候と路面は全てのライダーにイコールコンディションだが、装備や作戦はチーム毎に異なる。

松原湖高原オートキャンプ場は例年の倍以上の一般利用者があるバブル状態。そのため、3ヶ所を予定していたピットが2ヶ所に なり、初参加チームにやや有利になったのかも?

いつも「とれとれグループ」の独占状態だったグラウンドのピットに、今年は他に4チームが陣取った。その中に初参加枠の「キク ミミモータース」があり、当日朝にやって来て、ドタバタと準備を始めた。

しかし、スタート直後から上位争いに絡み、ハーフタイムを過ぎるころに一旦はトップに立つ予想外の走りを示し、夜間走行でオヤ スミタイムかと思いきや、後半も落ちずに3位をキープし、見事に入賞!

しかも、サブメニューの仮装、シェフ、ライティング、全てにエントリーするという、離れ業を示す、〇〇〇集団!



その上位争いの前半を引っ張ったのは#102・京都 MTB 朝ライド・ ソロだった。ライダーチェンジの度に路面に悩むチームとは違い、 走行ラインの見極めが必要なこの悪コンディションが有利に働いた のかも…?

そして上位争いは、2連覇中の常連チームに新興勢力が挑む構図 が最後まで続き、特別シード権を持つとれとれチームの追い上げも 気にせずに3年目でピットワークも充実したゼッケン311/ Pana-bishi(パナビシ)が、47周回/24:21:40の最高成績でフィ ニッシュした。

チームカの目安となるファイブラップスを、昼間は#303・とれとれ

1番隊、夜間は#301・キクミミモータース、早朝は#306・マティーノ・GDT隊が取る中、優勝チームは最速ラップを獲得しており、 安定感で走り抜いたと思われる。

実は今回、カテゴリー設定で迷いがあり、24時間はほぼオープンクラスの戦いとなってしまい、上位2チームは6名以上とチーム 構成人数で戦闘力に偏りが出てしまっていた。

ただ言えるのは、周回数から見て過去3年間は、69周回、64周回、58周回だったものが、54周回に留まり、良く耐えて走った展 開であって、高速バトルと違い、チーム人員の差は少なかったのでは?

そんなチーム対抗戦とは異なり、もうひとつの24時間、ソロカテゴリーの戦いにも異変があった。

シードゼッケン#101を持つ、マイティマン橋立の調子がスタート直後から上がらず、他の参加者からもその異変に心配の声が



寄せられいた。そしてレース終盤、計測テントで尋ねる前後のライダ ーとの差も、いつもの後続を気にするものではなく、3位キープを確 かめるものだった。

8名のソロライダーの内、初挑戦は3名。そしてカテゴリー優勝は、 17年ぶりの優勝となった#102・京都 MTB 朝ライド・ソロの足立磨 砂幸。日没までは総合トップをキープ、夜間も粘って70%完走をク リアする、総合7位・47周回/24:21:40でフィニッシュした。

# 24時間もうひとつの楽しみ方!?

小海町開発公社提供のBBQ

上位争いのリアル24時間耐久も重要だが、如何に楽しむかも、更 に大切な要素だ。

職場やクラブのメンバーで参加するチームがある一方、大学時代の サークル仲間の年中行事として参加しているチームや、昔のMTB

仲間との再会の場として利用しているチームもある。そして彼らの楽しみは、キャンプとMTBとサブメニューとなる。 そのサブメニューも、前夜祭的なBBQパーティから始まり、仮想コンテスト、シェフコンテスト、ライティングコンテストと仕込みの 必要なものもある一方、サンセット、ハーフ、サンライズと偶然性の三トロフィーや、復活実施のミッドナイトクイズなどで、24時間 の「時」の逃れを楽しんでいた。

開会式で傘を差しながら挨拶をして下さった小海町副町長の小池和 利氏の言葉にもあったように、恵まれた環境や、参加者、スタッフの 熱意で継続出来ており、今回も景品として特産野菜の詰め合わせで 大会をサポートして下さる小海町役場や観光協会など、多くの人に 支えられています。

MTBブーム時には今の倍以上の参加チームがあり、賞品協力メー カーも30社以上あった夢のような時代でしたが、継続が力と考え、 来年の24/24記念大会は何かしら仕掛けを設けたいと思います。 そして、新興勢力の台頭も感じられる状況は、その先の開催も充分 に期待できると強く感じた大会でした。

参加者およびご協力を頂いた皆様、本当ありがとうございました!

文責:企画担当/いしまるひであき 20151015



